

# ヤロウ・ダナム博士講演会

## (第13回グローバルCOE主催講演会：ユニットD)

タイトル：彼我の心理学：潜在的集団間態度の起源

(Us & them: The origin of implicit intergroup attitudes)

日時：2009年1月13日(水) 16時00分～18時00分

場所：京都大学教育学部 中央装置室 (215室)

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r\\_y.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm)

講演者：ヤロウ・ダナム (米・カリフォルニア大学マーセド校・助教)

指定討論：エマニュエル・マナロ (NZ・オークランド大学・准教授)

司会：子安増生 (京都大学教授)

お問合せ：子安増生 HGB03675/at/nifty.com

### 講演者ほか紹介

ヤロウ・ダナム博士は、1995年カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校を卒業、2002年ハーヴァード大学大学院修士課程修了、2007年ハーヴァード大学大学院博士課程修了、Ph.D. (心理学)。2007年から、カリフォルニア大学マーセド校・心理科学部助教に就任している。ちなみに、マーセド校は、カリフォルニア大学10番目のキャンパスとして2005年に開校した新しい大学である。ダナム博士は、以前英語教師(AET)として日本に住んだ経験があり、「僕の名前は日本語では〈野郎〉なんだ」という冗談も言える。

ダナム博士の専門は、社会的認知の発達であり、潜在的連想テスト(implicit association test)などを用いて偏見の心理的過程を研究している。たとえば、黒人(アフリカ系アメリカ人)に対する偏見は、4歳程度で獲得され、特にそれは潜在的指標で顕著に現われること、そして6歳以降では、成人と同じく社会的望ましさによると思われる顕在的な偏見表明の抑制が見られることなどを示している。今回は、「彼我の心理学：潜在的集団間態度の起源」というテーマで講演していただくことになった。

また、グローバル COE でもおなじみのエマニュエル・マナロ博士（ニュージーランド・オークランド大学スチューデント・ラーニング・センター所長）が偶然同じ日に京都に滞在されるので、指定討論者をお願いした。

## 講演要旨

For several decades, researchers have been interested in the development of intergroup attitudes and their relationship to prejudice and stereotyping. However, this research largely ignored developments in social psychology, which revealed that a major component of stereotyping and prejudice is unconscious or ‘implicit’. Only recently has developmental research begun to investigate implicit attitudes and stereotypes. My talk will review this research, demonstrating that implicit attitudes follow a distinct developmental course from their explicit counterparts. Understanding this distinction sheds new light on the processes driving the widespread tendency to prefer one’s own groups.

Yarrow Dunham, Ph.D.  
Psychological Sciences  
University of California, Merced  
Email: [ydunham/at/ucmerced.edu](mailto:ydunham/at/ucmerced.edu)  
<http://yarrowd.googlepages.com/>